

水産・海洋研究発表会の発表概要

<p><b>1. 来月のシラスは好漁？不漁？ ～1か月先の水揚量の予測への挑戦～</b>                  資源海洋科 主任研究員 鈴木聡志</p>	 <p>港へ水揚されたシラス</p>
<p>本県沿岸はシラスの好漁場ですが、シラスの水揚量は、数日から数週間ほどで増えたり減ったり大きく変化します。そのため、漁業者やシラス加工業者からは、水揚量の予測が求められています。今回、イワシの産卵量データ、黒潮流路、水温等の情報から1か月先の水揚量を予測する手法を開発したので、その内容について紹介します。</p>	
<p><b>2. 伊豆地域の磯焼けと漁港内に生育する海藻の不思議</b>                  ～漁港内の生育環境を調べて～                  伊豆分場 研究員 角田充弘</p>	 <p>稲取漁港内の海藻「アントクメ」</p>
<p>伊豆半島沿岸では、2017年から継続する黒潮大蛇行の影響により海藻が消失する「磯焼け」が顕著になっています。そこで海藻移植研究を実施し、豊かな海藻群落の回復を目指しています。適切な移植場所、生育条件を明らかにするため、大型海藻が繁茂する漁港内の環境を調べた研究を紹介します。</p>	
<p><b>3. 海藻は地球を救う？</b>                  ～ブルーカーボン・オフセット・クレジット制度の活用～                  深層水科 主任研究員 清水一輝</p>	 <p>榛南海域のカジメ藻場</p>
<p>我が国では、脱炭素社会の構築に向け、藻場等に取り込まれた炭素であるブルーカーボンのオフセット制度が試行され、藻場の維持拡大に必要な活動資金を獲得する新たなツールとして期待されています。そこで、本制度の活用を促すため、簡易的な藻場面積等の評価技術の開発を行っているので、その内容について紹介します。</p>	
<p><b>4. 浜名湖のアサリを守るために ～採貝漁業者の取り組み～</b>                  浜名湖分場 主査 隈部千鶴</p>	 <p>アサリを守る試みをする漁業者ら</p>
<p>浜名湖のアサリ漁獲量は近年大幅に減少しており、魚類などに食べられてしまうことが原因の一つと考えられています。そこで、採貝漁業者と網を用いてアサリを守る対策を実施し、効果を検証したので、その内容について紹介します。</p>	
<p><b>5. 海で育てマス！ ～国産ニジマスの海面養殖に求められるもの～</b>                  富士養鱒場 上席研究員 中村永介</p>	 <p>出荷される大型ニジマス</p>
<p>依然として高いサーモン人気。「紅富士」など大型のニジマスが全国各地で生産されるようになりましたが、国内では海外で主流な海面養殖が少なく、淡水での養殖が多くを占めます。国産ニジマス海面養殖の発展に向けた重要な取り組みのひとつである優良種苗の育種について紹介します。</p>	 <p>ヒスタミン分析の様子</p>
<p><b>6. 安心・安全な水産物の提供を目指して</b>                  ～ヒスタミンリスク管理手法の開発～                  開発加工科 研究員 大島伊織</p>	
<p>静岡県は豊富な水産資源に恵まれており、水産物を利用した加工品も数多く製造されています。しかし、主に赤身魚には潜在的にヒスタミンが蓄積するリスクがあります。そこで加工時のヒスタミン蓄積リスクを低減化する管理手法を開発したので、その内容について紹介します。</p>	